



# ニホンジカ

## 自然生態系分野 | 陸域生態系 | 野生鳥獣の影響

### 影響の要因

気候変動による気温の上昇や積雪量の減少に伴い、分布の北限や高標高における越冬地が拡大している。

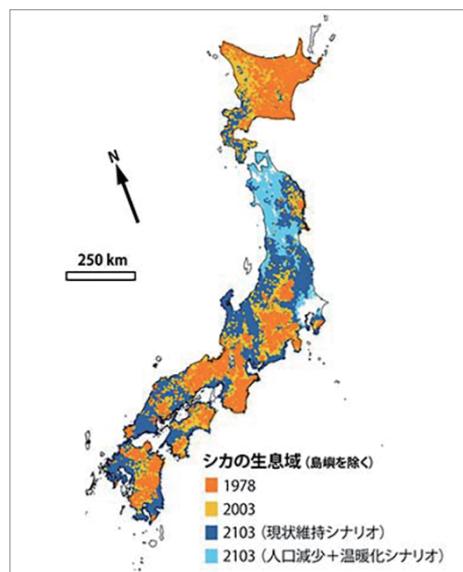


### 現在の状況と将来予測

生息適地が 1978 年から 2003 年の 25 年間で約 1.7 倍に増加、既に国土の 47.9% に及ぶという推定が得られている。



2103 年における生息適地は、気候変動による積雪量の減少と耕作放棄地の増加により、国土の 8 割近い  $318 \times 103 \text{ km}^2$  に増加するとの予測がある。



出典：大橋他（2016）

### 適応策

ニホンジカの分布拡大が予測されている地域において、被害が顕在化する前に備えておくことが重要。既被害地で蓄積されたノウハウ（被害防除、捕獲方法等）を移転し、被害軽減や対策の効率化を図る。

地域	既被害地		分布拡大が予測されている地域 (侵入初期・未被害地)
分類	被害防除	捕獲・個体数管理	ノウハウ移転
農地	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 侵入防止柵</li> <li>■ エサ場・隠れ場除去</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 囲いわな</li> <li>■ 箱わな</li> <li>■ くくりわな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人材育成</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 忌避剤</li> <li>■ テープ巻き</li> <li>■ 防護柵</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 卷き狩り</li> <li>■ 誘引狙撃</li> <li>■ 忍び捕獲</li> </ul>	<p>▶ 経験を伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 知見を有する人材・法人の活用</li> <li>[鳥獣プロデータバンク]           <ul style="list-style-type: none"> <li>協力相談</li> <li>地方公共団体等</li> <li>助言・協力等</li> <li>鳥獣保護管理の技術者</li> </ul> </li> <li>[認定鳥獣捕獲等事業者]           <ul style="list-style-type: none"> <li>予備調査</li> <li>計画に沿った捕獲</li> </ul> </li> </ul>
森林域（ニホンジカ生息地）	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 被害小</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 巻き狩り</li> <li>■ 誘引狙撃</li> <li>■ 忍び捕獲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 知見を有する人材・法人の活用</li> <li>[鳥獣プロデータバンク]           <ul style="list-style-type: none"> <li>協力相談</li> <li>地方公共団体等</li> <li>助言・協力等</li> <li>鳥獣保護管理の技術者</li> </ul> </li> <li>[認定鳥獣捕獲等事業者]           <ul style="list-style-type: none"> <li>予備調査</li> <li>計画に沿った捕獲</li> </ul> </li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 被害大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 防護柵</li> </ul>	



# ニホンジカ

地域

分類

被害防除

既被害地

捕獲・個体数管理

分布拡大が予測されている地域（侵入初期・未被害地）

ノウハウ移転

エサ場として侵入を防ぐ農地での対策と、ニホンジカ生息地である森林域での対策がある。

## 【農地】

### ①侵入防止柵

柵を設置し侵入を防ぐ。農地を個別に囲う場合、複数の農地を囲うグループ柵や集落全体を囲う柵がある。飛び越えられないように2m以上の高さにする。

### ②エサ場・隠れ場除去

①の効果を高める為に、営農管理(収穫しない野菜や果樹等の処理等)や休耕地・耕作放棄地の定期的な雑草刈り等が望まれる。

## 【森林域】

方法

### ①忌避剤

ニホンジカの個体密度の低い段階で、保護したい苗木に忌避剤を塗布し、食害を防ぐ。シカの密度が高まるにつれ、被害は止まらなくなる。  
(林野庁森林保護対策室 2012)

### ②テープ巻き

保護したい個体にテープを巻き、シカによる樹皮剥ぎ被害を防ぐ。テープそのものの劣化、肥大成長によるテープの食い込み等の問題点を抱えている。

### ③防護柵

被害が大きい再造林地での保護用に用いられる。森林は防護する範囲が広く、アクセスも悪いため、軽量で設置が容易なネット柵が使用されることが多い。

効果

森林域では、被害状況に応じた防除を行う事で効果が得られる。農地においてもニホンジカの生態等を踏まえた適切な防除(柵の高さ等)により効果が得られる。

**適応策の進め方**

**【現時点の考え方】**ニホンジカの生息密度が高い地域においては農作物、造林木への被害や土壌の流出などの影響が広く報告されており、被害防除（市町村）、個体数調整（都道府県）、生息地管理（都道府県並びに市町村）の3つの管理手法が進められている。

**【気候変動を考慮した考え方】**気温の上昇や積雪量の減少などにより、現在行われている越冬地（積雪を避けニホンジカが高密度に集まる場所）での集団捕獲手法の適用が難しくなる事や、冬季の生息地が拡大し捕獲もしにくくなる事が想定される。侵入初期・未被害地においては、既被害地でのノウハウを習得し、農業被害等が顕在化し始める段階から速やかに捕獲を行い低密度（被害許容水準を超えない）に抑え込む事が重要となる。また、獣種特性や行動特性等に応じたICT等の新技術を活用した、省力的かつ効率的な捕獲技術の開発（農林水産技術会議 2018）及び活用も有効と考えられる。

**【参考文献】**大橋春香他(2016)「過疎と温暖化の進行がシカの分布拡大を促進する」<https://www.ffpri.affrc.go.jp/research/saizenzen/2016/20161013-01.html> (参照2020年9月7日)、環境省「鳥獣プロデータバンク」<https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort1/effort1.html> (参照2020年9月23日)、環境省(2020)「気候変動影響評価報告書(詳細)」<http://www.env.go.jp/press/files/jp/115262.pdf>、環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護管理室(2020)「認定鳥獣捕獲等事業者講習テキスト」<http://www.env.go.jp/nature/choju/capture/pdf/pdf2-1.pdf>、高知県(2014)「わな獵シカ捕獲マニュアルーこれであなたもわな名人ー」[https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/212601/files/2015012000038/kouchi\\_siakahokaku.pdf](https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/212601/files/2015012000038/kouchi_siakahokaku.pdf)、鈴木正嗣他(2014)「シカ捕獲事業における体制論と手法論——シャープシューティングをめぐる考え方の整理—」[https://www.jstage.jst.go.jp/article/suirikagaku/58/1/58\\_9\\_.pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/suirikagaku/58/1/58_9_.pdf)、対策手法確立調査・実証事業検討委員会編(2017)「野生動物による被害対策一特色ある人材育成プログラムの実例一」[https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozu/higai/manyuaru/taisaku\\_jinzzai\\_ikusei/H28\\_houkoku\\_jinzzai\\_ikusei-10.pdf](https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozu/higai/manyuaru/taisaku_jinzzai_ikusei/H28_houkoku_jinzzai_ikusei-10.pdf)、鳥獣被害対策基盤支援委員会(2014)「改訂版\_野生鳥獣被害防止マニュアル\_イノシシ・シカ・サル」<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozu/higai/manyuaru/attach/pdf/manual-3.pdf>、日本学術会議・兵庫県森林動物研究センター(2019)「野生動物と共に生きる未来へ持続可能な野生動物管理システムの構築をめざして～」[http://www.wmi-hyogo.jp/publication/pdf/sym\\_h30abst.pdf](http://www.wmi-hyogo.jp/publication/pdf/sym_h30abst.pdf)、農林水産技術会議(2018)「野生鳥獣及び病害虫被害対応技術の開発(中間評価)」[https://www.affrc.maff.go.jp/docs/hyouka/itakupro/pdf/tyuukan\\_itaku-4\\_201803.pdf](https://www.affrc.maff.go.jp/docs/hyouka/itakupro/pdf/tyuukan_itaku-4_201803.pdf)、農林水産省(2009)「野生鳥獣被害防止マニュアル-イノシシ・シカ・サル・カラス(捕獲編)」[https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozu/higai/manyuaru/old\\_manual/manual\\_hokaku\\_old/data3.pdf](https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozu/higai/manyuaru/old_manual/manual_hokaku_old/data3.pdf)、林野庁森林保護対策室(2012)「森林における鳥獣被害対策のためのガイド-森林管理技術者のためのシカ対策の手引き-」[https://www.rinya.maff.go.jp/j/hogo/higai/pdf/gaide\\_all.pdf](https://www.rinya.maff.go.jp/j/hogo/higai/pdf/gaide_all.pdf)、酒井敦(2018)「皆伐・再造林地におけるシカ防護柵の実態と被害対策」[https://www.jstage.jst.go.jp/article/suirikagaku/61/6/61\\_101\\_.pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/suirikagaku/61/6/61_101_.pdf)、八代田千鶴(2017)「シカの捕獲体制の構築と課題」[https://doi.org/10.11519/jjss.79.0\\_6](https://doi.org/10.11519/jjss.79.0_6)